

◆事例紹介

K.I.T.空間情報プロジェクトの活動について

鹿田正昭

金沢工業大学 環境土木工学科 教授

本日は、K.I.T.空間情報プロジェクトについて紹介したいと思います。多くの技術者、地域住民、学生がこのプロジェクトに参画しております。大学のメンバーは、徳永教授、下川教授、土田教授、神山教授、そして私になります。

それでは簡単にプロジェクトの歴史を紹介します。2005年に3つの研究室が学生のプロジェクトを活性化するための勉強会を開始したのが始まりです。しかし、学生だけの勉強会では、動機、モチベーションがあまり高くありませんでした。そこで、われわれは学生が独自のプロジェクトテーマを設定し、地元の小中学生を受け入れることを考えたのです。そのプロジェクトは「カメラキッズ」と名付けられ、2008年にスタートしました。プロジェクトの目標は活動を地域へ広げていくことで、2009年に空間情報プロジェクトが地元企業7社の参加で始まりました。

金沢工業大学は、文部科学省の大学COC事業（地(知)の拠点整備事業）に選定されています。その申請書に記載されているように、ワーキンググループセミナーのすべてに学生が参画し、今年度からは学習支援計画書にも記入されております。現在活動中のワーキンググループのほか、準備中のものもごぞいます。

こちらの写真は、地元企業と地元自治体のために活動中の準天頂衛星初号機「みちびき」のワーキンググループの様子です。目的は、衛星を使って日本版GPSの正式運用に向けての実証実験と新たな産業創出です。写真の実験には7つの企業と多くの学生が参加しました。

こちらは地上型レーザー計測ワーキンググループの活動で、技術者が学生に取り囲まれて説明をしている様子です。

3番目は地元住民と技術者に対する空間情報セミナーで、学生によるプレゼンテーションの写真です。セミナーは年間5、6回開催され、2013年には30企業から70名の参加がありました。このときは21名の学生がそれぞれの研究内容を登録メンバーに紹介しました。その際、学生は、技術者から有益なアドバイスを受けることができます。

最後は子どもたちへのサイエンスセミナーです。このプロジェクトの計画と運営は学生のみで行われております。

こちらのスライドはワーキンググループセミナーにおける学生の目標のサンプルです。学生は、技術者、地域住民、および子どもたちとともに活動し、プロジェクトに参加するすべての学生が目標を設定しています。学生は必ず目標のひとつを達成しなくてはなりません。

こちらのスライドはカメラキッズのホームページです。子供向けサイエンスセミナーに興味がありましたら、ぜひこのホームページにアクセスしてください。

最後にプロジェクトのキーワードを述べます。まず、このプロジェクトには2つの教育があります。準天頂衛星「みちびき」ワーキンググループと地上レーザー計測マニュアルワーキンググループというローカルなエリアのためのワーキンググループです。

さらに、空間情報セミナーとサイエンスセミナーがあり、すべてのテーマにおいて大きな教育的効果を生んでおります。ご清聴ありがとうございました。